

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	都島区
学校名	桜宮小学校
学校長名	荒木 豊充

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に关心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科、全教科において平均正答率が大阪市および全国の平均正答率を上回った。国語では4.2ポイント、算数では7ポイント、理科では4.9ポイント、それぞれ全国の平均正答率と比較すると上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

国語科を重点教科として学力向上支援チーム事業に取り組んだり、体育科を通して「主体的・対話的で深い学び」を研究したりして、授業力の向上に努めてきた。その結果「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の領域において、大阪市・全国を上回った。自分の考えを伝えたり、表現したりする力、話し手の意図を捉えることや、筋道を立てて話すことといった対話する力が定着してきているといえる。授業での意見交流や発表活動の積み重ねが成果につながったといえる。また、言葉の特徴や使い方、言語文化においてもよく理解し、基礎的知識の定着がみられる。一方、「情報の扱い方」の領域においては大阪市は上回ったものの、全国と比べるとやや下回る結果となった。国語科だけでなく、総合的読解力の学習に結び付けながら資料をもとに情報を読み取り、整理・比較しながら活用する力を伸ばしていきたい。

[算数]

算数科の全ての領域において大阪市・全国を上回った。特に「数と計算」「図形」の領域において大きく上回り、基礎・基本の学力が定着してきているといえる。課題としては「測定」の領域において、大阪市・全国を上回っているものの、正答率が他の領域と比べると低い。高学年において「変化と関係」の領域の単元の際も、授業の中で、時刻と時間、重さ、長さといった「測定」の領域と関連させ復習しながら学習するといった工夫をし、低・中学年からの積み重ねを行うことで「測定」の領域においてもさらなる定着を図っていく。

[理科]

理科の全ての領域において大阪市・全国を上回った。特にB区分である「生命」「地球」を柱とする領域は大きく上回った。観察や記録をしっかりと行い、そこから自然現象を理解したり、植物や昆虫などの身近な生物の特徴や体の仕組みなどの理解ができているといえる。A区分においても大阪市・全国を上回った。さらに伸ばすためには、観察・実験を行い理科に親しむだけでなく、結果や生活経験を根拠に説明したり、表や図を活用して相手に解りやすく伝えたり活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びにつなげていきたい。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より2.2ポイント高い。学力向上チーム支援事業などを通じて授業力の向上に取り組んだり、たてわり班活動を軸にした全校児童が仲良く過ごすための取組を進めたりしている結果と考えられる。また、「読書は好きですか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より9.5ポイント高い。主幹司書と協力し、授業に関連する図書をいつでも児童が読めるようにしたり、学年に応じた読み聞かせの実施、地域の図書ボランティアさんとの連携、幼小連携といった委員会活動を実施したりと、児童が図書に触れる機会を多く設けた結果といえる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができますか」の項目では、最も肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より0.6ポイント高い。国語科や体育科をベースとして本校が取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」の成果が表れた結果と考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

体育科を通して、「主体的・対話的で深い学び」となるよう研究に取り組んでいる。他の教科においても、体育科での研究をいかし、「主体的・対話的で深い学び」となるように、授業展開の工夫を行っていく。そして、本年度も学力向上チーム支援事業で国語科を主として授業力向上に取り組んでいる。学校外で行われる他校の研修会にも積極的に参加し、楽しく力がつく国語科の指導法についても学んでいく。

また、朝の学習の時間を設け、漢字の反復練習、読書を重点的に行い基礎基本の力を育成するようにしている。そして、引き続き、ICT機器の効果的な活用、専科による学習の充実など、個別最適な学びとなるよう、学習形態の工夫を重ねる。また、指導力向上に向けて、研修や研究をさらに深め、児童の学力向上に結びつけて、実践につながるよう進めていく。